



「アリ」



先日、目を奪われた本（新書）を衝動買いしてしまいました。その名も「働かないアリに意義がある」（メディアファクトリー新書）です。目次には、なんと、**7割のアリは休んでいる！！**（マジかっ！！）という文字が・・・というわけで、購入し読んでみました。

どうやら本当らしいです。ぼくらが、「アリは働き者だよね～」とかいっている地中では7割のアリは働いていないなんて・・・少し騙された感じがして残念でした。でも、それにはちゃんとコロニーを維持する理由があったりするということも解説されていました。遺伝子の話は難しかったけど、とてもおもしろい進化のお話でした。

人間との対比もおもしろかったです。

・過労と同じで、働きづめのアリは何もしないアリより早く死んでしまうそうです・・・(アリにも過労死が)

→みんなが働きづめで疲れると（アリの）社会は長続きしないようです。

・アリは小さいときは卵や幼虫の世話、若いときは巣の中の作業、年をとって余命が短くなると巣の外で餌を探す役割になるそうで、ちょっと冷徹ですね。

著者はアリやハチの社会性を研究している生物学者です。とてもユニークな学者さんなんだろうということが想像できます。みなさんも、もし興味を引かれたらこの本を読んでみてください。

アリやハチには、上司や中間管理層がないのにコロニーがうまくまわるのって不思議じゃありませんか？